

## 会話の育て方

2019.11.10 神戸定例会  
藤坂龍司

はじめに

会話にはこちらからの自発的な話しかけと相手からの話しかけへの応答の二つの側面がある。

会話 < 自発  
          < 応答

	自発	応答
初級	要求の自発 叙述の自発	
中級前半	呼びかけ	社交的応答 意志のイエスノー
後半	質問の自発  先生ごっこ	質問の弁別 事実のイエスノー 過去の出来事の質問 情報交換型会話
上級	報告の自発 提案 会話のイニシエーション	適切な質問を返す 相づち、感想 反論・言い返し  話題の変化に対応する

### A. 初級～中級の自発的話しかけ関連課題

#### ☆叙述の自発

「あれ何？」の代わりに、「あっ！」と言って指さすのがコツ。子どもが興味を持ちそうなものを選ぶとよい（消防車、パトカー、電車など）。

#### ☆呼びかけ

ただ要求を言うのではなく、「パパ」「ママ」と名前を呼んで要求を伝えることを教える。

「ねえねえ」と注意を引くことも教えるとよい。

#### ☆質問の自発

##### (1) これ何？

テーブルの上に知っている物を4つくらいと、知らない物を1つ、横並びにおいて、「教えて」と言い、端から指さしながら名前を言っていさせる。知らない物のところに来たら、「これ何？」と言わせ

る。

最初は「これ何？」と言えたら、それで強化し、答えは教えない。「これ何？」がプロンプトなしに言えるようになったら、答えを教える。

### (2) どこ？

わざと物を隠して、「〇〇取ってきて」。子どもが物を探し出したら、「どこ？」と言わせる。言えたら、場所を教えてあげて、強化。

### (3) 先生ごっこ

子どもにセラピスト役をさせ、大人に対して、指示を出させる。自発性の促進に貢献が期待できる。

## B. 初級から中級の応答課題

### 1. 社会的応答・あいさつ

#### <社会的応答>

「お名前は？」「何才？」「何組さん？」

#### <あいさつ>

エコー型あいさつ おはよう→おはよう、バイバイ→バイバイ

非エコー型あいさつ ただいま→おかえり、どうぞ→ありがとう、  
いってらっしゃい→いってきます

#### <エコラリアの克服>

「お名前は？」と聞くと、「お名前は？」と答えてしまう場合、

①答えだけ言ってエコーさせることから。

「けんちゃん」→「けんちゃん」

②質問文を、まねできないほどの極小声で導入。徐々に大きくしていく。

「お名前は？けんちゃん」→「けんちゃん」

③一方、答えの方は徐々にフェードアウトし、頭文字だけにする。

「お名前は？け・・・」「けんちゃん」

④最後に頭文字プロンプトもやめる。

「お名前は？」「けんちゃん」

### 2. イエス・ノー

#### (1) 意志のイエス・ノー

「だっこしていい？」「いい」「こちょこちょしていい？」「だめ」

#### (2) 事実のイエス・ノー

リンゴを見せて、「これなに？」「りんご」

「これ、りんご？」「りんご」「これ、バナナ？」「ちがう」「これ、メロン？」「ちがう」「これ、り

んご?」「りんご」

☆最初から「うん」「ううん」を教えない。肯定はその物の名前をリピートさせるだけにし、否定の時だけ、「ちがう」と言わせることで、子どもの負担を減らし、成功の可能性を高める。

### 3. 質問の弁別

#### (1) 物に関する質問の弁別

物に関して、「これ何?」「何色?」「何の仲間?」などの質問を区別させる。

まず「これ何?」と「色は?」から。

名まえも色も、同じくらい印象が強いもの（例えば赤いコップ）を使って。

最初は質問の声の高さも、手の仕草も変えて、二つの質問の違いに気づかせる。

#### (2) 人に関する質問

パパ/ママ/子どもが、おふろ/トイレ/台所/階段などにいる写真を使って、「だれ?」と「どこ?」を区別。

それでもわからないようなら、風景写真に人の写真を貼り付けてもよい。例えば南極の写真にパパの顔写真を貼り付けて、「誰?」「どこ?」

「だれ?」「どこ?」ができれば、「何してる?」

### 4. 過去の経験に関する質問

#### (1) どこ行ってきた?

例えば玄関に行って、「ここどこ?」「玄関」セラピールームに戻ってきて、「どこ行ってきた?」

「玄関」

#### (2) 何した?

玄関に行って、だっこして、「ここどこ?」「玄関」「何してる?」「だっこ」「そうだね」帰ってきて、「どこ行ってきた?」「何した?」

#### (3) 現実場面への般化

公園からの帰り、まだ公園にいるときに、「ここどこ?」「公園」「何して遊んだ?」(ブランコを指さしながら)「ブランコ」。次は公園の入り口で。次は家に帰る途中で。

### 5. 情報交換型会話

#### (1) 物に関する情報交換

大人が何かを持ち、子どもには別の物を持たせて、

大人「これはバナナ」子ども「これはピーマン」

大人「バナナは黄色い」子ども「ピーマンは緑」

大人「バナナは果物だよ」子ども「ピーマンは野菜だよ」

#### (2) 人に関する情報交換

大人「わたしはママ」子ども「ぼくは〇〇」

大人「ママは20才」子ども「ぼくは4才」

大人「ママは青い服着てる」「ぼくは緑の服着てる」

大人「ママは大人」子ども「ぼくは子ども」

### C. 上級の会話関連プログラム

<応答>

#### 1. 適切な質問を返す

最初は「いいもの」などのわかりやすいキーワードを使う。

大人「ママ、いいものもってんだ」 子ども「何持ってるの？」 大人「アイス。食べる？」

↓

徐々に自然な手がかりで

大人「ママ、お買い物行ってきたんだ」子ども「何買ってきたの？」大人「チョコ。食べる？」

#### 2. 感想コメント・相槌

「すごいなあ」「いいなあ」「かわいそう」などの感想コメントや「へえ」などの相槌。「大丈夫？」など相手を気遣うセリフを教える。

大人「ママ、今日、アイス食べたんだ」子ども「いいなあ。ぼくもたべたいなあ」大人「まだあるよ。食べる？」「うん」

大人「痛い、痛い」子ども「どうしたの？」大人「ここ、けがしちゃった」子ども「大丈夫？」大人「ふーふーしてくれる？」「うん」

感想コメントを教えたなら、何でも情報交換で返すのではなく、まず感想コメントで返すように促す。

#### 3. 聞き返し

「ケンちゃんは水族館好き？」「うん、好き。パパは？」「好きだよ」「そうなんだ」

#### 4. 確信プログラム

大人がわざと事実と違うことを言って、子どもにそれでも真実を曲げないことを教える。

例えば大人がキリンをもって、

「これ、ぞうさんだよね」「ちがうよ。キリンだよ。」「これ、シマウマだよね。」「違うよ。キリンだよ」「そうだね。キリンだね」

#### 5. 言い返す

「アホ」「アホ」「あっち行け」「お前があっち行け」「くそが」「おまえがくそじゃ」

<自発>

#### 1. 報告の自発

例えば「ボール取ってきて」と言って取ってこさせて、「何した？」と聞くのではなく、「ボ」と冒頭の言葉を言って、「ボール取ってきた」という報告の自発を促す。

徐々に楽しいことがあった時などに般化させる。

## 2. 「なー」ことば

「あんなー」は相手に話しかけるときの注意喚起。途中につける「なー」は息継ぎのことば。

「あんなー、ママなー、きのうなー、買い物行ったよ」

「あんなー、ぼくなー、きのうなー、公園に行ったよ」

## 3. 会話のイニシエーション

「あんなー」を利用して、子どもに会話を始めるよう促す。

「あんなー、して」

「あんなー、〇〇ちゃんなー、ぞうさんが好きなんだ」「ママもぞうさん好き。かわいいよね」

「あんなーで幼稚園の話して」

「あんなー、きょうなー、さとしくんが泣いてん」「なんで?」「ころんだねん」「どうしてころんだん?」「走っててな。ころんでん。それでな、「大丈夫」って言ってん」

## 4. 気づかい・援助の提案

相手が泣いているときなどに、「どうしたん?」とか「大丈夫?」と声をかけることを教える。

### <上級会話>

○相手の話題の変化についていく。

○話題をキープする。

○自分が始めた話題で、話が途切れた時に、話をつなぐ。

○相手の興味のあることを話す。